

# OXFORD

Oxford Day 2017

# THE POWER OF LANGUAGE

Partnership with Keio University, Endorsed by British Council



OXFORD

『現代日本における教育改革：知識社会化の課題と展望』

—2020年学習指導要領改訂を中心にして—

岡田昭人

東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授

Oxford Day 2017 Oct 22

THE POWER OF LANGUAGE

Oxford University Press in partnership with Keio University Global Research Institute

DOMI MINA

# 現代日本社会の状況

AI（人工知能）の進化

急激な情報化・グローバル化  
世界規模での経済競争に勝ち抜く

2016年5月 当時の馳浩文部科学大臣  
「ゆとり教育との決別宣言を明確にしておきたい」



2020年 約10年ぶりとなる学習指導要領の改訂

→ 「たくましく、しなやかに生きていく人材」を育てるためには？

**学校教育の大きな見直しが急務**

# VUCAワールドの到来

## VUCA

**V**olatility (変動)    **U**ncertainty (不確実)

**C**omplexity (複雑)    **A**mbiguity (曖昧)

1990年代アメリカ

冷戦終結後の複雑化した国際情勢  
を意味する軍事用語

2010年代

経営やマネジメント、教育の分野へ

「VUCAワールド」 ” VUCA world”

中央教育審議会（中教審）での検討

# 本発表の目的

- 2020年の学習指導要領改訂の概観
- 学習指導要領改訂の論点整理
- 新しい学習指導要領導入後の諸問題
- 現代教育改革のめぐる学術的議論
- 教育の機会均等に関する議論

# 発表の構成

- 「学習指導要領」とは何か？

概要説明 歴史的改訂の変遷

- 今回の学習指導要領改訂のポイント

「論点整理」とその具体的政策

- 改訂後に生じうる問題点

教育の機会均等を中心に

- まとめ

# 「学習指導要領改訂」とは何か？

学校教育法施行規則に基づき，文部科学省が小・中・高校の各段階で教えなければならない最低限の内容などを決めた基準

年間授業時間

教科書編集の基準

約10年ごとに改訂

「総則」・「解説書」

「法的拘束力のない文科省作成の著作物」という扱い

各出版社が教科書編集の際に参考

# 「学習指導要領改訂」の変遷

1940年～1960年代:戦後の教育制度の構築・逆行・教育拡大

1970年代:「受験地獄」や「詰め込み教育」への反省

1980年代:学習内容や履修時間が少しずつ減る

→「ゆとり教育」実施 「生きる力」育成

1990年代:「特色ある教育」「学校週5日制」

「総合的な 学習の時間」「中高一貫校」

2000年代:2008年の改訂「脱ゆとり」「個性重視」

2003年 高校1年生対象の第2回国際学習到達度調査 (PISA)

2010年以降「資質能力」の育成を重視

# 2020年学習指導要領改訂：論点の整理

受け身の対処



積極的な知識やスキルの獲得・イノベーション

中央教育審議会「論点整理」

- 1 「ゆとり教育」か「詰め込み教育」という二項対立的な議論からの脱出

知識と思考力のバランス↑  
高校 知識の暗記→大学入試 X

高大接続改革等

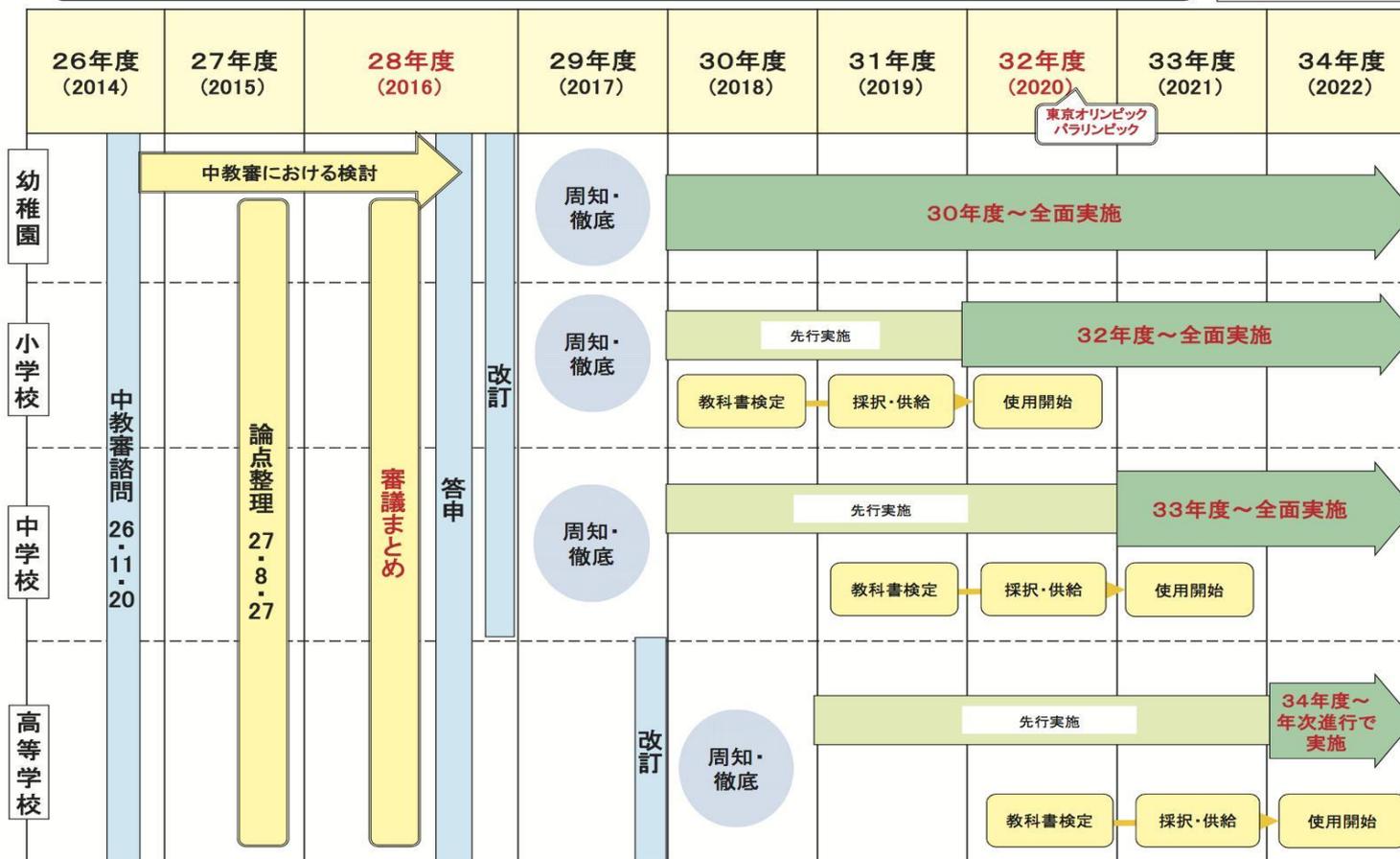
- 2 資質・能力の育成のための「アクティブ・ラーニング」

- 3 必要な教科・科目構成等の見直し

小学校の外国語教育  
高校の新科目「公共（仮称）」

今後の学習指導要領改訂スケジュール（現時点の進捗を元にしたイメージ）

平成28年8月26日  
中央教育審議会  
教育課程部会  
資料3



出典

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/siryu/\\_icsFiles/afieldfile/2016/08/29/1376580\\_3.pdf#search=%27%E4%BB%8A%E5%BE%8C%E3%81%AE%E5%AD%A6%E7%BF%92%E6%8C%87%E5%B0%8E%E8%A6%81%E9%A0%98%E6%94%B9%E8%A8%82%E3%82%B9%E3%82%B1%E3%82%B8%E3%83%A5%E3%83%BC%E3%83%AB%EF%BC%88%E7%8F%BE%E6%99%82%E7%82%B9%E3%81%AE%E9%80%B2%E6%8D%97%E3%82%92%E5%85%83%E3%81%AB%E3%81%97%E3%81%9F%E3%82%A4%E3%83%A1%E3%83%BC%E3%82%B8%EF%BC%89%27](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/siryu/_icsFiles/afieldfile/2016/08/29/1376580_3.pdf#search=%27%E4%BB%8A%E5%BE%8C%E3%81%AE%E5%AD%A6%E7%BF%92%E6%8C%87%E5%B0%8E%E8%A6%81%E9%A0%98%E6%94%B9%E8%A8%82%E3%82%B9%E3%82%B1%E3%82%B8%E3%83%A5%E3%83%BC%E3%83%AB%EF%BC%88%E7%8F%BE%E6%99%82%E7%82%B9%E3%81%AE%E9%80%B2%E6%8D%97%E3%82%92%E5%85%83%E3%81%AB%E3%81%97%E3%81%9F%E3%82%A4%E3%83%A1%E3%83%BC%E3%82%B8%EF%BC%89%27)（アクセス 2017/08/22）

# 小中高学校学習指導要領等の改訂の3つのポイント

1) 生きる力の育成

2) 授業時数の増加

3) 新しい科目と学習指導方法の導入

「言語活動の充実」「伝統や文化に関する教育の充実」

「道徳教育の充実」「外国語教育の充実」

アクティブラーニングによる学習指導



「ゆとり教育」から「脱ゆとり」へ

# ポイント1：「生きる力」の育成

教育基本法：日本の教育に関する根本的・基礎的な法律 「教育憲法」

1947年制定 → 2006年第一次安倍政権下で改訂

戦後教育基本法（教育学者・教員から支持）  
改訂教育基本法（保守政党・財界などから支持）

政府が主張する  
「生きる力」とは？

2006年の改訂教育基本法 「愛国心は教育の目標の一つ」 → **新保守主義からの要請**

## ポイント2：授業時数増加

授業時数を10%程度増加 → 週あたり1コマ程度増加

小学校：国語・社会・算数・理科・英語・体育

中学校：国語・社会・数学・理科・外国語・保健体育

### 高校

- ✓ 卒業に必要な単位数は変化無し
- ✓ 国語、数学、外国語は共通必修科目設定 ↔ 理科は更に選択履修可能に
- ✓ 週あたり30単位時間を超えてもよい

教師の負担が増える

# ポイント3：新しい課目の導入

## 外国語教育の充実

### 小学校

外国語活動を導入

(小3・4) 聞く・話す

→ (小5・6) 読む・書くの導入

年間35単位時間ずつ↑

### 中学校

教材の題材の充実

読む・書く・聞く・話す技能

議論・討論の学習

### 高等学校

「公共」科目等の新設

「アクティブラーニング」

小中高の一貫性

授業は英語で指導

# 改訂ポイントのまとめ

- 「教育大改革」：『学習指導要領』の根本を議論
- 新しい学力と資質の育成：新科目の創設（言語・公共等）
- 外国語教育の拡充：コミュニケーション重視
- アクティブラーニングの導入

「ゆとり教育」から「脱ゆとり」へ

知識だけを身に付けばいい??

新自由主義・  
新保守主義が  
必要とする人  
材育成?!

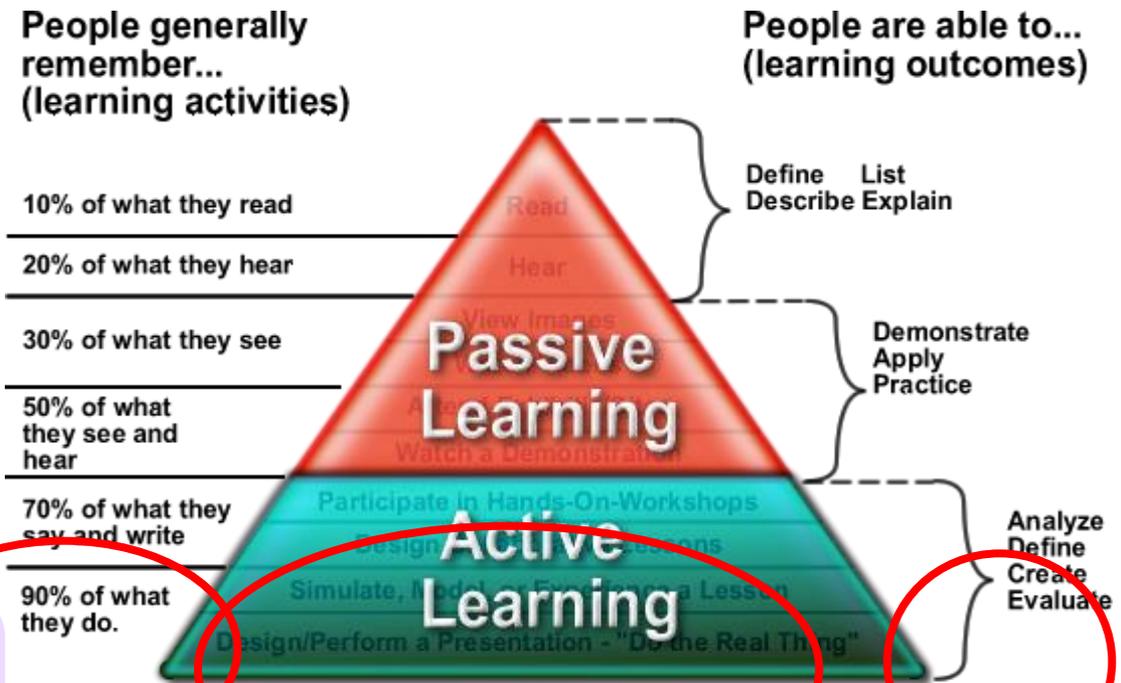
# アクティブラーニング（能動的学習）

教員による  
一方向的な講義形式の教育



主体性重視

学習者の  
能動的な学習への参加  
教授・学習法の総称



出典：<https://search.yahoo.co.jp/image/search?rkf=2&ei=UTF-8&gdr=1&p=Active+Learning#mode%3Ddetail%26index%3D0%26st%3D0> (アクセス 2017/08/22)

# アクティブラーニングの導入後の課題

## 指導上の困難

初等中等教育 講義形式の授業が一般的・・・  
 少人数グループでの活動が少ない  
 OECD 国際教員指導環境調査TALIS 2013)

教師の指導方法  
 教員養成に課題、研修？

## 成績評価

成果をどう評価？

それぞれの学びの過程・・・

どのように把握？ どのように評価？

**根本的な大学入試改革の可能性**

# 指導要領改訂と教育の機会均等問題

- 「ハイパーメリトクラシー（超業績主義）」

本田由紀（教育社会学者） 「コミュニケーション能力」 「独創性」 「問題解決力」  
「努力しても報われない」 「幸運やコネ」が人生の成功で重要

- 「意欲格差社会（インセンティブ・ディバイド）」

荻谷剛彦（オックスフォード大学教授） 「二極化された社会」  
階層間の勉強に対する意欲に格差

- 学校選択の自由と学校間格差間

公立学校制度改革（小中一貫校 中高一貫校）  
新自由主義による教育改革（市場原理の導入）  
選択の自由拡大と自己責任強化  
学校間での競争の激化（家庭間格差 地域格差 都会-地方格差）

## 学習指導要領の改訂後の諸問題

- 「新自由主義」と「新保守主義」による教育改革

グローバル社会の経済競争に必要な人材育成と国家主義的教育の抱き合わせ
- 新しい「能力」の評価の困難

家庭・学校・地域による格差が生じる

学校現場の混乱（アクティブラーニング 英語教育 道徳教育など）

学歴競争の低年齢化（幼児期からの英語教育 プログラミング  
プレゼンテーション指導など）
- 大学入試改革との関連性

「卵が先かニワトリが先か」

大学入試が変わらないと大学前が変わらない、大学前の教育が変わらないと…
- 国民の合意形成が必要

特定の政治集団の意思決定に従うのではなく国民全員に開かれた教育議論

## 参考文献・資料

岡田昭人(2013)『教育の機会均等』学文社

苅谷剛彦(2001)『階層化日本と教育危機—不平等再生産から意欲格差社会(インセンティブ・ディバイド)へ』有信堂

クレスコ編集委員会(著) 全日本教職員組合(著)(2016)『クレスコ no.184—現場から教育を問う 学習指導要領改訂のねらいと問題点』大月書店

中央教育審議会初等中等教育分科会(2017)「教育の強靱化に向けて(参考資料2)

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/\\_icsFiles/afieldfile/2016/06/09/1371613\\_23.pdf#search=%272020%E5%B9%B4%E5%AD%A6%E7%BF%92%E6%8C%87%E5%B0%8E%E8%A6%81%E9%A0%98%E6%94%B9%E8%A8%82+%E8%83%8C%E6%99%AF%27](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/_icsFiles/afieldfile/2016/06/09/1371613_23.pdf#search=%272020%E5%B9%B4%E5%AD%A6%E7%BF%92%E6%8C%87%E5%B0%8E%E8%A6%81%E9%A0%98%E6%94%B9%E8%A8%82+%E8%83%8C%E6%99%AF%27) (アクセス2017/08/22)

奈須 正裕 (2017) 『「資質・能力」と学びのメカニズム』東洋館出版会

藤田英典(2014)『安倍「教育改革」はなぜ問題か』岩波書店

フジテレビ「ハウドウキョク」(編)(2016)『日本人なら知っておきたい 2020教育改革のキモ』扶桑社

本田由紀(2005)『多元化する「能力」と日本社会—ハイパー・メリトクラーシ化のなかで』NTT出版

ご清聴ありがとうございます

Contact info: Prof. Akito Okada    Email: [aokada@tufs.ac.jp](mailto:aokada@tufs.ac.jp)

OXFORD  
UNIVERSITY PRESS